



山口都市核

～住みよさと創造が織りなす“文化交流拠点”～

1 山口都市核づくりの取り組み方針

(1) めざす山口都市核の姿

都市核づくりの基本方針を踏まえ、山口都市核は、風格と彩りにあふれた以下のまちの姿を目指します。

① 人々の暮らしを豊かにする“文化”のまち

山口都市核の主な役割の一つは、消費者が求める様々な商品や各種サービスの提供をはじめとする物質的・精神的欲求を充足させることであり、こうした需要を満たすことができるか否かが魅力の大小につながっています。

山口都市核は、常に高度で多様な需要に対応でき、また、先端の情報を提供し、あるいは、ライフスタイルを提案することのできる、市民や訪れる人々の多様な価値観を満足させ、潤いのある市民生活を送ることができると文化性あふれるまちを目指します。

② 人々を惹きつける“個性”のまち

山口都市核が持続的に発展していくためには、市民はもとより、県内外から多様な人々や事業所等呼び込めるような魅力が必要であり、そのためには、他にはない個性が必要です。

山口都市核は、歴史文化や自然景観に恵まれており、これらの地域資源を生かした個性あるまちを目指します。

③ 新たな文化や消費が生まれる“創造”のまち

山口都市核が活気にあふれ、元気であり続けるためには、常にそこで新しい挑戦が行われ、新しい文化が創造され、国内外に向けてまちの価値として発信され、訪れる人にとって新たな発見ができる場であることが必要です。

山口都市核は、新たな文化や消費を生み出し、そこから新たな産業や起業が生まれるような創造性と活気にあふれるまちを目指します。

④ 誰もが住みたくくなるような“心地よい”まち

山口都市核の活力の大きな要素の一つは、都市核内の定住人口です。山口都市核は、商業、医療、教育、文化、娯楽といったサービスが身近に受けられ、また、比較的公共交通が発達しているなど利便性の高い場所です。特に、高齢者や子供といった交通弱者にとっては基本的に暮らしやすい環境が整っており、なかでも大殿地区（亀山周辺・中心商店街・大内文化ゾーン）は、国の“歩いて暮らせる街づくり”モデル地区にも選定されています。

山口都市核は、住む人に優しい、誰もが住んでみたくなる心地よい居住空間を提供するとともに、人と人とのふれあいを大切にするまちを目指します。

(2) 山口都市核づくりの取り組み方向

めざす山口都市核の姿の実現に向け、以下のとおり一体的な取り組みを進めます。

① 「山口らしさ」を表現する

歴史文化や自然景観を生かした個性あるまちづくりにあたっては、「山口らしさ」にこだわったまちの顔、まちのシンボル、街なみづくりに取り組む必要があります。

山口都市核は、一の坂川や亀山などの自然や大内文化に代表される歴史、湯田温泉など他の都市にはない彩り豊かな地域資源を内包しており、これらの「山口らしさ」を明確に表現し、さらなる魅力の向上を図ります。

② ゾーン間の連携・機能の強化を促進する

山口都市核は、ゾーンごとに異なる個性的な魅力と機能を有しています。こうした魅力や機能を増していくため、各ゾーンの個性に磨きをかけるとともに、有機的な連携を促進します。

また、産・官・学の連携によるアカデミー機構の整備など、山口都市核内外の多様な機能との連携も図りながら都市核機能の強化を進めます。

③ 集積を促進する魅力的な都市空間を創出する

集積がさらなる集積を促進することを踏まえ、市街地再開発事業や土地区画整理事業等を含めた土地の有効利用や利便性の向上等、集積を生む優れた立地条件の整備に努めるとともに、集積を促す動機付けとなるような複合施設の整備、祭りやイベントを意識した整備の推進など、魅力的な都市空間の創出を推進します。

④ まちの近づきやすさや回遊性を高める

山口都市核は、周辺地域から人々が集い、たまり、巡る場所でもあることから、近づきやすさや回遊のしやすさが重要です。そのため、交通アクセス・ネットワークの強化やまち全体のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、心理的な近づきやすさや回遊のしやすさも高めていくこととします。

(3) 成果指標と目標数値

にぎわいの創出については、創出効果がどの程度得られたかを判断する指標とともに、目標数値の設定による評価が必要であり、現在の状況及び山口都市核づくりの進捗状況について市民に分かりやすく伝えていきます。

★ 表1 交流人口

		平成8年	平成18年	平成24年	平成29年	
観光客数		150	214	230	250	単位：万人／年 出典：市統計年報（市観光課）
湯田温泉 宿泊客数		69	57	60	65	単位：万人／年 出典：市観光課
商店街 通行量	平日	73,502	40,818	44,000	50,000	単位：人／日 出典：商店街通行量調査（商工会議所）
	休日	86,322	54,252	58,000	65,000	
山口・湯田温泉 駅乗車人員		2,367	1,759	1,900	2,200	単位：人／日平均 出典：市統計年報（県統計年鑑）

* 観光客数は、湯田温泉、香山公園・五重塔、県立美術館・博物館等、中原中也記念館等、龍福寺等、亀山公園・サビエル記念聖堂、山口情報芸術センター、菜香亭の総数

* 商店街通行量は、下記の調査ポイントの総数

中市：金子染物店前、JTB前 米屋町：みずほ銀行前
道場門前：いさみや前、コーヒーボーイ前、どうもんパーク前
西門前：ビューティ愛前 新町：ギャルソン前
駅通り：無印良品前、万徳寺前

★ 表2 定住人口

	平成7年	平成17年	平成22年	平成27年	
山口都市核 内人口	12,601	10,829	11,500	13,000	出典：国勢調査
山口都市核 内世帯数	5,649	5,283	5,400	6,000	

★ 表3 経済活力

	平成8年	平成18年	平成23年	平成28年	
山口都市核内事業所数	2,586	2,221	2,300	2,400	出典：事業所・企業統計調査
山口都市核内従業者数	24,555	21,095	22,000	24,000	単位：人 出典：事業所・企業統計調査
	平成6年	平成16年	平成23年	平成28年	
小売業商店数	834	678	700	750	出典：商業統計調査
小売業従業者数	3,870	3,631	3,700	3,800	単位：人 出典：商業統計調査
小売業年間販売額	72,013	47,277	55,000	60,000	単位：百万円／年間 出典：商業統計調査
小売業売場面積	79,372	76,482	77,000	78,000	単位：㎡ 出典：商業統計調査
	平成7年	平成17年	平成24年	平成29年	
商店街空き店舗数	17	19	10	5	出典：商工会議所

- * 小売業商店数・従業者数・年間販売額・売場面積は、大殿、白石、湯田地区の総数
- * 商店街空き店舗数は、大市、中市、米屋町、駅通り、新町、道場門前、本町、荒高商店街の空き店舗の総数

2 山口都市核ゾーン別計画

(1) ゾーン別計画

山口都市核エリア全体を通じて共通していることは、周囲の自然と調和した街なみと長い歴史を感じる、しっとりと落ち着いたまちの佇まいです。

こうした山口固有のまちの雰囲気大切にしつつ、エリア内の各ゾーンの個性を磨き、にぎわいを創出し、拠点性の向上を図っていきます。

このため、各ゾーンに特性を踏まえたゾーンコンセプトを設定するとともに、一部ゾーンについては都市機能等の集積軸となる十字路を設けます。

また、各ゾーンに関わりの深い民間団体をにぎわい創出の推進力として位置づけ、多様な主体によるまちづくりを積極的に進めていくこととします。

亀山周辺

中心商店街

大内文化

情報・文化

湯田温泉

亀山周辺ゾーン、中心商店街ゾーン

ゾーンコンセプト

～～ 憩いの空間 ～～

行政・文化施設の多く集まる亀山周辺ゾーンと小売業の集積する中心商店街ゾーンからなる山口都市核の中心地区として、人々の暮らし、文化を支援するとともに美しい街なみを生かしたシンボリックな“憩いの空間”づくりを進めます。

十字路構想

++ 暮らしと文化の十字路 ++

憩いの空間の中心軸として、小売業を中心とする商店街機能を高める機能の集積を促すとともに、山口都市核の玄関口として南側に位置する山口駅の機能強化に努めます。

また、北の亀山周辺ゾーン、東の大内文化ゾーンとのつながりを重視した集積の促進を図ります。

にぎわい創出の推進力

山口市中心市街地活性化協議会、山口商工会議所、(株)街づくり山口、山口市商店街連合会、各商店街組合、山口中心市街地まちづくり推進協議会、人美響のまちづくり推進会議ほか

① 亀山周辺ゾーンと中心商店街ゾーンの一体性の促進

亀山周辺ゾーンは、市役所や税務署などの公共機関が集まる一方、道路と公園が一体化した落ち着いた雰囲気の中に美術館や博物館等の建物が溶け込み、さらにはサビエル記念聖堂の特徴的な尖塔が遠くからも望めるなど、本市を代表する景観として市民に親しまれています。

この亀山周辺ゾーンと、アーケード街を中心に小売業の集積する中心商店街ゾーンは、個々のゾーンが持つ魅力、機能等によって相互に補完しあいながら、本市の顔とも言える中心地区として求心力を保ってきました。

しかしながら、人口の空洞化や郊外型の大規模小売店舗の進出等によって中心商店街ゾーンの活力が次第に失われつつあることから、今後も2つのゾーンが連携して都市核のなかの中心地区として、今後激しさを増す都市間競争を勝ち抜くためのけん引役となることが求められています。

こうしたことから、両ゾーン間の物理的、心理的障壁をできるかぎり取り除き、緊密な連携のもとで中心地区としての魅力をよりいっそう向上させるため、2つのゾーンの一体性の促進を図ります。

また、本ゾーンには、スペインやクリスマスといった山口ゆかりのテーマに関連する地域資源があることから、これらを生かしたまちの顔としての魅力向上が求められます。

関連事業

- 現山口市役所敷地のシンボル公園化と行政機能の亀山公園ふれあい広場への移転
- まちのシンボルとして、気ままに訪れ、憩えることのできる亀山公園の整備
- 県道204号線沿線の整備（交差点改良、イベントロード、電線類地中化等）
- パークロード、駅通りの軸線の一体性の強化と魅力の向上（歩道、植樹帯、ファサード等の統一、県立美術館・博物館の整備充実等）



② 商店街の魅力向上

郊外型の大規模小売店舗の進出等によってにぎわいが低下しつつある中心商店街に求心力を取り戻すためには、一つのまちとしての商店街だからこそ備えている魅力を引き出していく必要があります。

このため、商店街全体を一つのショッピングモールと見立て、個々の商店をはじめとして商店街を構成する各施設等が、相互に連携・補完しあいながら持てる機能を十分に発揮できるよう、複合的な機能を有する施設の整備促進など緩やかな商業用途による活性化も視野に入れた基盤づくりを行います。

さらには、消費という欲求を単純に満たすだけでなく、川の流れや風の薫りといった自然の息吹を感じることで精神的安らぎを得られるなど、本市ならではの中心商店街としての付加価値を高めるため、回遊性を持つ商店街への再生を図ります。

関連事業

- 東西核の整備（アルビ跡地の有効活用、どうもんパークの整備）
- 公設市場・川端市場の移転
- 公設市場・川端市場移転跡地のトランジット機能の導入と広場等の整備
- 一の坂川河川再生と周辺整備（美装化、左岸道路の整備等）
- 一の坂川との一体性・回遊性を高める商業空間、憩いの空間の整備（米屋町北地区）
- 起業、経営革新等の支援拠点の整備
- アーケード街沿線の整備（交差点改良、イベントロード、サイン、ファサードの統一等）
- 商業路地の整備と商店の誘導
- 商店の個性化、情報化の促進
- 人をひきつけるイベント等の開催



③ 山口駅周辺の整備

山口駅は、中心地区、あるいは都市核エリアへの玄関口として都市間交流や市民の移動拠点の位置を占める重要かつ不可欠な機能として位置づけられます。

こうしたことから、玄関口にふさわしい景観の整備を図るとともに、訪れる人にとって快適な空間の整備を進めます。

関連事業

- 都市核の玄関口としてのシンボルの設置
- 七夕ちょうちん広場の整備
- 土地開発公社所有地の有効活用
- ターミナル・トランジット機能の強化
- 案内機能、駅機能の充実強化
- パークロード、駅通りの軸線の一体性の強化と魅力の向上（歩道、植樹帯、ファサード等の統一等）**再掲**



④ 街なか居住の促進

中心地区は、都市のスプロール化によって人口の流出が進んではいるものの、暮らしに必要な施設、機能が歩いていける範囲内に一定規模集積していることから、暮らしやすい条件を備えています。

こうしたことから、街なかにおいて良質な住宅の供給を促進することによって人口のまちなか回帰を促し、都市活力の再生を図ります。

関連事業

- 公営住宅の整備
- 民間住宅の建設促進
- 空き家を活用した住宅の整備
- 空き家、空き地情報のストック、発信（空き家バンク制度）

⑤ 交通アクセスと回遊性の向上

中心地区が多くの人々ににぎわい、親しみやすい場所であり続けるため、交通アクセスの向上を図るとともに、だれもがまち歩きを安全、快適に楽しめるよう、ユニバーサルデザイン化等、歩行環境の改善を進めます。

関連事業

- 亀山周辺、中河原周辺の駐車場の再編整備
- 公設市場・川端市場移転跡地のトランジット機能の導入と広場等の整備 **再掲**
- JR山口線の増便、電化とJR宇部線との直結化の促進
- 市道黄金町野田1号線の美装化
- 誘導サインの整備
- 道路のユニバーサルデザイン化、歩道の整備
- パーク&サイクル（バス）ライドの導入と関連整備
- ポケットパーク・スペース、トイレ等の整備

亀山周辺

中心商店街

大内文化

情報・文化

湯田温泉

大内文化ゾーン

ゾーンコンセプト

～～ 和みの空間 ～～

数多くの歴史遺産や街なみ、風情を大切に活かし、訪れる人々にとっては、古への思いをいにしえ、季節や人の温もりを感じることができ、暮らす人々にとっては、終の住処として誇りが持て、歴史を後世へ語り継ぐことのできる、にぎわいと佇み、暮らしと歴史が同居する“和みの空間”づくりを進めます。

十字路構想

++ 東西文化・過去と未来の十字路 ++

和みの空間の中心軸として、大内文化をはじめとする歴史遺産、街なみの価値を高める機能の集積を促すとともに、サビエル記念聖堂のある西の亀山周辺ゾーン、南の中心商店街ゾーンとのつながりを重視した集積の促進と導線づくりを行います。

にぎわい創出の推進力

山口商工会議所、(株)街づくり山口、人美響のまちづくり推進会議、山口まちづくりセンターほか



① 歴史資源、街なみの整備、保存

大内氏の時代から育まれた歴史遺産等を有機的に結びつけ、過去・現在・未来へと大内文化の薫りが伝わるよう、歴史資源の保存・活用や歴史を学ぶ拠点施設の整備、歴史の薫る街なみ景観づくり、伝統産業の継承・集積を図ります。

関連事業

- 豎小路、一の坂川、香山公園等の周辺の景観づくり
- 町家再生、街なか出店の促進
- 大内氏遺跡ガイダンス施設の整備
- (仮称) 匠の里 (体験型工房) の整備
- (仮称) 大内文化歴史館の整備
- 行事、祭りの復興
- 歴史的遺産の積極的な保存・活用 (世界遺産登録等)、史料の収集・整理
- 市民主体のまちづくりを進めるためのまちづくり意識の醸成、人材の発掘・育成



② 回遊性の強化

ゾーン内に点在する、国宝瑠璃光寺五重塔、大内氏館跡をはじめとする数々の歴史資源や個性的な街なみは、街なか観光にふさわしく、本市を代表する貴重な観光資源です。

このため、この地を訪れる多くの人々の回遊性を高めるための機能強化を進めていきます。

関連事業

- 交流を促す導線づくり
- 大路・小路の通り名称（サイン）の整備
- パーク&サイクル（バス）ライドの導入と関連整備
- 水の上町周辺の一の坂川沿いの散策道の改善
- 菜香亭周辺の駐車場整備
- 休憩所等の整備

③ 街なか居住の促進

街なかでありながら落ち着いた風情のある本地域は、ゆっくりとくつろげる場所でもあり、暮らしやすさを備えた地域でもあります。まちのにぎわいを取り戻し、来訪者へのおもてなしや人と人のふれあいを大切にする観点からも、街なか居住を促進します。

関連事業

- 空き家を活用した住宅の整備
- 空き家、空き地情報のストック、発信（空き家バンク制度）
- 公営住宅の整備
- 民間住宅の建設促進



亀山周辺

中心商店街

大内文化

情報・文化

湯田温泉

情報・文化ゾーン

ゾーンコンセプト

～～ 創りの空間 ～～

情報・文化機能の集積を活用し、創造的な研究・活動を通じた人づくり・産業づくり・まちづくりを行い、新しい価値を創出、発信するとともに最先端の情報技術・文化に触れ、豊かな感性や知性を育むことのできる“創りの空間”づくりを進めます。



① 山口情報芸術センター事業の推進

市内外から訪れる人々が気軽に集い、自由に参加できる情報と文化の交流拠点として、次世代を担う人材の育成、メディアアートやパフォーマンスなど世界に通用する新たな山口文化の創造、資料・情報の蓄積・提供を中心とした文化創造事業や教育・学習支援活動を推進します。

関連事業

- 市民の文化、芸術活動の育成支援
- 文化・芸術の創造と振興
- 情報教育・学習の推進
- 図書館機能の充実

② 情報関連企業の誘致と産業づくりの推進

教育・産業・芸術・市民等の連携による研究機能の充実や情報関連企業等の立地を促進し、情報と文化の融合による新産業の創出を図ります。

関連事業

- 情報関連企業、研究機関等の立地促進
- (仮称) C & S スタジオの建設促進
- 情報文化産業等、付加価値の高い新産業・事業の創造
- 情報通信の拠点づくり



亀山周辺

中心商店街

大内文化

情報・文化

湯田温泉

湯田温泉ゾーン

ゾーンコンセプト

～～ 癒しの空間 ～～

県都の街なかに位置する温泉として、広域観光・宿泊拠点機能の充実を図るとともに、豊富な湯量、良質な泉質を誇る温泉地としての魅力をさらに高め、訪れる人々が楽しみ、リラクゼーションのできる“癒しの空間”づくりを進めます。

十字路構想

++ 癒しと文化の十字路 ++

癒しの空間の中心軸として、温泉地、宿泊拠点としての機能や訪れる人々の回遊性を高める機能の集積を促します。

にぎわい創出の推進力

山口商工会議所、(株)街づくり山口、湯田温泉まちづくり協議会ほか



① 街なかの温泉地としての魅力・雰囲気づくり

湯田温泉は県道204号線を中心として温泉街が形成された市街地立地型の温泉地です。温泉地としての吸引力を高めていくためには、古くからの温泉地をはじめとして、近年各地に整備されている温泉施設等との違いの明確化、個性化を図る必要があります。

こうしたことから、湯田温泉を訪れる観光客に対し温泉地としての魅力を伝えるための基盤整備を進め、街なかの温泉地にふさわしい新たな雰囲気づくりを図ります。

また、滞在・交流型の観光地への転換を図るため、温泉街そのものを観光資源と捉え、宿泊客を温泉街へ誘導するとともに、宿泊客以外の観光客も温泉街そのものを楽しめる仕組みづくりとして、観光客の散策を促す個性的な街なみの整備を促進します。

関連事業

- 温泉地としてのシンボル施設の整備
- メインストリート(県道204号線)及びアクセス道路(湯田温泉駅通り・湯の町通り・温泉通り等)等の修景整備
- 温泉街の雰囲気を感じさせるゲートウェイの整備
- 温泉街の主要スポットなどに誘導を促すシンボル等の設置
- 山口情報芸術センターのアネックス機能の導入
- 山口銀行跡地の有効活用



② 宿泊・コンベンションの拠点としての機能強化

県内屈指の宿泊地として高い宿泊受入能力を有するとともに、街なかの温泉ゆへの優れた交通アクセスを生かして、小郡都市核及び周辺に位置する「山口情報芸術センター」や「維新百年記念公園」、「山口大学」といった本市の有する多様な都市機能との緊密な連携を進め、宿泊・コンベンションの拠点としての機能強化を図ります。

また、より一層の交通アクセスの向上に向け、湯田温泉の中心軸である県道204号線と市街地周辺環状線を形成する国道9号とのアクセスの強化を図るとともに県道204号線による都市核エリア各ゾーンの連携強化を進めます。

関連事業

- コンベンション機能の充実
- 国道9号と県道204号線のアクセス強化(一本松朝倉線、泉町平川線の整備等)
- ターミナル・トランジット機能の強化
- 案内機能、湯田温泉駅機能の充実強化

③ 街なか居住の促進

街なかの温泉地ならではの暮らしの利便性を備えた快適な生活空間として、街なか居住を促進し、まちの活力の再生を図ります。

関連事業

- 公営住宅の整備
- 民間住宅の建設促進

(2) ゾーン間の連携

山口都市核エリアの一体的な魅力の創出と活性化を図るためには、各ゾーンの有機的な連携の仕組みを構築することが重要となります。このため、特に都市活力の創造に資する観光・コンベンション、産業創造、文化交流面における連携やゾーン間の回遊性の強化に努めます。

① 観光・コンベンション面での連携

観光面では、県下最大の宿泊拠点である湯田温泉の宿泊機能を活用し、例えば、大内文化ゾーンとの連携においては、現在行われている「ナイト観光バス」のような取り組みや伝統工芸等における滞在型の体験観光といった取り組みの発展が期待されます。情報・文化ゾーンとの連携においては、同様に滞在型の創作活動や宿泊客への図書への貸し出しなど、また、中心商店街ゾーンとの関係では、宿泊者への祭りやイベントへの参加・協力、商店街でしか手に入らない商品の提供等の連携が考えられます。

また、コンベンション面では、会場の連携はもとより、食事や買い物、アフターコンベンションなどといったトータルでの連携強化が求められます。

② 産業創造面での連携

産業創造面においては、情報・文化ゾーンの持つ創造、発信といった機能を十分に活用していくことが求められます。例えば、中心商店街ゾーンや湯田温泉ゾーンとの間で、商品やサービスの付加価値を高めていくような相互連携を積極的に進めていくほか、大内文化ゾーンを活用した新たな“まち歩き文化”を創出することで、新たな消費が生まれ、新たな起業や新産業を生み出すといった相互の資源活用を通じた連携を進めていくことも必要です。

③ 文化交流面での連携

文化交流面では、本市の都市核の特徴でもある大内文化を中心とした伝統文化の保存・伝承を、それぞれのゾーンの営みの中で受け継いでいくような連携が求められます。

また、デジタルアーカイブなどの手法により、大内文化ゾーンと情報・文化ゾーンの連携を通じた大内文化の発信や新たな文化の創造、発信等に努める必要があります。

④ 回遊性の強化

ゾーン間の回遊性を高めるためには、相互の接続の良さや誘導が必要です。このため、道路網や公共交通の整備に努めるとともに、大内文化や明治維新等エリア内に共通するキーワードによる導線づくりや近年の健康志向を踏まえたジョギングロードとしての歩行空間の整備といったゾーン間のつながりを意識したしかけづくりもポイントとなります。

ソフト面においても、5つのゾーンを一つのアミューズメントエリアとして捉えた情報発信機能の導入など、点ではなく面としてのマネジメントを行っていくことが必要です。

また、市民活動や経済活動等における連携の仕組みづくりも重要であり、市民組織の立ち上げや異業種交流等の促進が求められます。

